

ももさと 通信

2020年
9月1日
創刊号

〈発行〉 社会福祉法人桃郷 〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3 TEL 0736-66-8851 FAX 0736-67-8851



すべての子どもに豊かな育ちを

URL <http://www.ももさと.com>

E-mail momosato@galaxy.ocn.ne.jp

三角屋根がキュート ～「くるみ教室」を開設～



「くるみ教室」竣工にあたり

常務理事 船木 栄子

岩出市と和歌山市の市境に、赤い三角屋根が二つ並んだメルヘンチックな小さな平屋の建物、くるみ教室です。

「保護者の方と子どもと一緒に遊ぶの広場」

「保護者から離れお友だちと一緒に生活を楽しむ広場」

二つの役割をもって、乳幼児を対象とした児童発達支援事業として運営をまいります。

約十年間、民家をお借りしての実施で、その間、保護者の方々、子どもたち、職員には大変な不便を負わせてきました。

このたび、保護者の方々のあたたかいご支援と職員の努力、何よりも子どもたちのゆるぎない育ちが礎となり「くるみ教室」の竣工に至りました。

瞬時を惜しまず発達する子どもたちです。この園舎や園庭の素晴らしい環境でお友だちと一緒に、いっぱい遊んで・おいしい給食・ぐっすり昼寝・しっかり排泄・はばかることなく自分を出し切って豊かな感性を実らせていくことでしょう。

子どもたちは一人ひとりのペースで成長振りをを見せてくれますが、少し時間をかけ、ていねいな関わりが必要な場合があります。そして、その関わりはできるだけ早期から適正な環境のもとで進めることが条件です。

社会福祉法人桃郷がかかける「すべての子どもに豊かな育ちを」の願いのもとに、子どもたちを主人公にして保護者の方々と私達職員、そして、まわりのみなさんと手を繋ぎ、この教室をみんなの幸せをつくる場所としてこの場からまた一歩を歩み始めました。

今後共にご支援をいただけますよう、よろしくお願いたします。

ブへ修繕に行った際、「ただいま〜」という子どもの声が聞こえてきて、「いいなあ」「こういう仕事もあるのやなあ」と知りました。また、障がいのある子がいるお宅に行った際には、お母さんがとても優しく、こういうご家庭もあるのかと、すごく印象に残っています。私の父が元教員で、当時少なかった特殊学級を作ってきた、という話を最近話してくれました。遺伝子的にこの仕事についているんだな、と感じています。



澁川

元は幼稚園 教諭を6年間勤め、退職後にウエディンングプランナーの

職につきたくて、仕事を探

していたところ、藪本部長のご紹介で面接を受け、「ひまわり園」で保育を体験しました。1年間のプランクもあり、こんなに難しい仕事は無理だと思いましたが、放課後等デイサービスの事業所に就職させていただきました。



明坂

就職した きっかけは、事務員を募集しているという紹介を受け、

面接後、就職させていただ

きました。初めの1年は、放デイ職員として勤務し、2年目からは事務局職員として勤務しています。当時は、障がいの事が全く分かっていませんでしたが、子どもとのかかわりあい、また、いろいろな研修を受けることで、平和

仕事の楽しさややりがい

や憲法を大事にするということを学び、ものの見方も変わりました。

榎本 当時、年齢の近い職員が多く、

みんな話して合うことで楽しく保育することができました。私は「ひまわり園」で保育の楽しさを教えていただき、元々、人とかわかることが大好きで、子どもはもちろん、保護者の方や職員にもかわかることが大好きです。

澁川 放課後等デイサービスの子どもたちは、少し大きい子どもたちなのに、こんなに伝えることが難しいということに、私には絵本を読むのが大好きなのに、子どもに絵本を閉じられて拒否されたことがあります。

それが悔しくて、どうすれば私の読み方を聞いてくれるのかなと頑張っているうちに、仕事も楽しくなってきました。最初は、ばらばらだけど、友だちの名前を覚え、スプーンを使えるようになる、毎日毎日変わっていくのが、かわいいし、小さな成長を見られるのが楽しいです。

和田 日々変わっていく子どもたちの成長をそばで見られる保育士という仕事、いっぱい悩むことはありますが、職員みんなで、子どもの個性をみながら、力を合わせながら仕事ができるのが楽しみであり、やりがいでもあります。

す。

北川 桃郷を一度退職し、別の保育所で勤務したとき、子どもが伸び伸びとできていないと感じ、疑問に思うことがありました。今は意見を出し合い、他の保育士と共有しながらできる保育が、直接子どもたちにつながる事が嬉しく、みんなで考え、チームワークのいい環境の中で保育できることでやりがいを感じています。

山田 昨年、くるみ教室の建設にかかわらせていただきました。今までは、あつて当たり前だった施設が、打合わせにこんなにも時間がかかり、長い道のりのルールをひいてくれていたおかげで保育ができるんだと実感しました。子どもたちの成長をそばで見られること、そして、保護者の子どもへの接し方が目に見えて変わること、それがやりがいです。

金城 放課後等デイサービスでは、自分の好きなこと、趣味としてやってきたことを、子どもたちに伝えることができるのが、楽しくて魅力です。

保育士として悩んだりする瞬間は？

和田 すごく悩むこともあります。一人で考えないで、一緒に考えてもらう環境にあります。発達相談員から科学的根拠に基づいたアドバイスもあり、学びや気づきも多いです。

平原 悩んだときは、仲間に聞いて相談します。自分だけで抱えきれないときは相談するようにして、悩んでもしょうがないので、やってみようというポジティブに思っています。

山田 管理者として判断しなければならぬときには悩みます。

北川 私はベッドに入ると、一日の保育について振り返り、自分を反省することがあり、悩み夢を見ることもあります。どれが正しいかとはありませんが、いい保育、楽しい保育になるようにと考えてしまいます。

金城 同じ障がいを持っていても、一人ひとり、個性が違い、どう対応したらいいか考えだすときりがあります。悩むところです。

澁川 日々悩んでいます。食べられない子どもたちをどうすれば食べられるようになるのか、どうしたら集団に入れるのか、どうすれば楽しい保育ができるのかなど、色々考えてしまいます。

榎本 子どものことで、保護者の方と方向性が違ってしまうときに悩んでいます。

和田 いい保育をどんどんやっていくとすると、目標が上がってきます。保育所のように、指導要領に従ってすればいいという四角四面でないの、試行錯誤すると本当に時間に追われます。保育内容も昨年の年少と今年の年少とは違うし、することはたくさんあります。私が就職した時よりも、今の職員のほうが大変だと思います。

司会 副園長や主任保育士は、純粹に保育のことばかり考えられない立場になっていきます。園長の補佐としての役割、保育士からの相談、保護者の方々からの相談など、職務が多岐にわたり、中間管理職としての悩みも多いと思います。

後輩職員に伝えたいことは？

北川 ステキな仕事をしている、すごいということ伝えてあげたいです。

そして、一緒に考え悩みを共有してあげればと思います。また、挑戦することも忘れないでほしいです。

和田 私は育てるという意識はあまりありませんでしたが、保育というのはいっぱい悩むけれども、楽しい仕事、よそではできないことが、桃郷ではできるといことを伝えたいです。子どもはかわいいし素敵な存在。私は言葉で伝えるのが下手なので、仕事をしながら伝えられればと思います。一生懸命な姿を見せていくしかないと思います。

金城 面白いことを自分の中で見つけること。失敗してもいい。失敗しても見えてくることがあります。失敗して次のステージが見えてきます。一言で言うなら、「やってみたら」です。

山田 完ぺきを求めるのではなく、やりたいことに、どんどんチャレンジし、その都度、反省をし見直していこうと

思います。

平原 私は、色々失敗もしましたが、先輩たちから責められたことはなく、先輩たちの「一生懸命」な姿を見て学んできました。だから、若い職員には、「一生懸命」にする姿を見せられるように頑張りたいです。今の若い職員は、プラスして一つ一つ認めてあげて、ていねいに教えてあげることが大事だと思います。

榎本 若い職員が悩んでいる姿が見えるし、うまくいかない場面が見えますが、「いまはそれでいい、そのことと向き合って悩んだらいい」と伝えるようにしています。

「こうしなければならぬ」ということではない」ことを伝えていきたいと思っています。「こうでなければならぬ」という職員もいます。私は、「そうでなくてもいい」と言い続ける立場でありたいです。

金城 青空は、2003年から始まりました。私のように当時の基本スタイルを知っている職員もいますが、全く知らない職員もいます。その中で意見のぶつかり合いが出てくることがあります。その時その時の背景があって、作り上げられた経緯がありますので、背景も伝えただ中で、スタイルを伝えられればと思います。

司会 柔軟な発想が必要だと思えます。これが正しいというものではなく、時代とともに変えていかなければならないものもあります。桃郷の理念さえ逸

脱しなければ、否定しないやわらかな姿勢が必要ですし、桃郷の理念も、時代の変化やニーズを敏感に察知して、職員自身で見直していつてほしいです。

仕事は楽しいですか？

北川 楽しいです。

和田 楽しい。

平原 楽しい。

金城 子どものすることを、笑って、大きく構えて見られるようになりました。

明坂 事務局の仕事は、日々期限に追われ、期日までにしなければならぬことが多く、無事終わって良かった、間に合って良かったと思うことが多いです。また、法人運営についても、勉強しなければならぬことが多く、責任を感じています。

その他、言い残したことは？

榎本 新型コロナウイルス感染症予防のため、私たち保育の現場で、行事の見直しなどを余儀なくされていますが、子どもたちへの影響をどう考えればよいでしょうか。

司会 保育の現場はまさに「3密」の状況で、当面、保育と感染防止の課題は続くと思います。ただ、大人が心配しすぎると、子どもが不安になります

ので、身振り手振りや、子どもたちに安心感を持つてもらい、過度な心配が子どもたちに伝わらないようにすること、困った職員がいればお互いに声をかけ合うなど、明るい雰囲気子どもが安心感につながると思っています。

今日の座談会で、みなさんのお話を聞かせていただいて、私の知らないことが、たくさんありました。

みなさんが、保育現場や事務の現場で、日々悩みながら、情熱をもって業務に携わっていることに感謝します。

(おわり)



座談会の様子

ごあいさつ（広報誌の発刊に寄せて）

新型コロナウイルスが日本で検出されたのが1月16日、一時、感染者数が減ったものの、7月に入ってからは、東京都や大阪府の大都市圏をはじめ、和歌山県など地方においても、新型コロナウイルスの感染者数は増加傾向にあり、一向におさまる気配がありません。マスクでは、連日新型コロナウイルス感染症の話題ばかりで、どうしても気がめいってしまいがちになりますが、確かな情報をもとに、「3密」を防ぎ、ていねいな手洗いとマスクの着用に心がけ、正しく恐れて適切に注意するように心がけています。



和歌山県では4月16日に国の緊急事態宣言が出され、全面解除されたのが5月25日、全面解除に合わせ、さる6月1日から通常保育に戻っています。この間の経験を糧に、お預かりしている大切な子どもたちの健康管理に万全を期し保育をさせていただきます。

現在、社会福祉法人桃郷は、和歌山県北部（紀の川市、岩出市、橋本市、かつらぎ町）を中心に13の事業所を運営し、毎日約200名の子どもたちにご利用いただいています。

あらためて、法人の歴史を振り返りますと、1988年（昭和63年）11月28日、岩出町（現岩出市）に無認可施設「ひまわり園」を立ち上げ、5年間の無認可施設の運営のあと、1993年（平成5年）6月に「社会福祉法人桃郷」を設立、翌1994年（平成6年）4月に桃山町（現紀の川市）に、法人初めての施設として認可通園施設「ひまわり園」を運営し現在に至っています。

「すべての子どもに豊かな育ちを」をスローガンとして、五つの法人理念のもと、障がいのある子どもたちを育てることは特別なことではなく、「あたりまえ」で「ふつう」の保育をていねいに紡いでいくことで子どもたちが育つことを、日々の保育の中で全力で実践してまいりました。

昨年度は、懸案の児童発達支援事業「くるみ教室」の屋舎を岩出市に新設し、今年度6月1日から、0歳児から3歳児の子どもたちの早期療育を行っています。また、老朽化が目立ってきた「ひまわり園」も、社会福祉施設等施設整備補助金の対象となり、全面改修を行うことができました。

ひとえに、地域の方々をはじめ関係者の方々のご支援の賜物と感謝しております。

今後とも、役員・職員が一丸となって信頼をいただける法人としてまい進してまいりますので、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2017年（平成29年）に社会福祉法人制度が改正され、社会福祉法人にガバナンスの強化、透明性の向上、財政規律の強化などが求められることになり、このたび、事業所の活動状況や、予算・決算などの財務内容、役職員の動向など関連する情報をお伝えするために広報誌「ももさと通信」を発行することとしました。この広報誌を通して私どもの活動をお伝えし、ご理解をいただければと考えています。ご意見・ご要望がございましたら、ご遠慮なくお伝えいただければ幸いです。

社会福祉法人桃郷
理事長 船木 孝明



桃郷の理念



- ① すべての子どもたちが平等な権利を享受し、地域社会に参加できることを目指します。
- ② 保護者、家族、地域と共に学びあい、共に育ちあうことを目指します。
- ③ ひとり一人の子どもの発達を理解し、生活を通して豊かな人生を歩む基礎づくりを目指します。
- ④ 地域福祉の担い手として、地域ニーズに応える取り組みを実践します。
- ⑤ 保健、福祉、医療、教育、地域の皆様と手を取り合い、子どもを支える地域づくりを目指します。

新人職員研修 「ようこそ桃郷へ」

新規採用職員研修は5月1日(金)、7月1日(水)のフォローアップ研修をはじめ、5月19日(火) つぼみ園、5月28日(木)、29日(金) ひまわり園での現場研修を行い、6月30日(火)には、新規採用職員研修Iを開催しました。フォローアップ研修では、入職後の一ヶ月と三ヶ月を振り返り、自信がついたこと、不安なこと、事業所の感想、今後受けた研修などを話してもらいました。

新規採用職員研修Iでは、講師は法人理事と先輩職員が行い、法人職員として大事にしてほしい内容(法人の歴史、法人理念、発達保障、療育に関わる制度、各種規程など)を中心に研修を行いました。

研修後、提出されたレポートの一部を紹介します。「日本国憲法第13条の



新規採用職員研修 I の様子

幸福追求権の話が心に残りました。できた、できないで評価せず、まずは子どもたちが楽しい、幸せだと感じてもらえる事業所にしていきます」

「法人の歴史には、多くの方々への思いや努力、涙、喜びがあることを知り、決して風化させてはいけないものと感じました」

法人として初めての新規採用職員研修でしたが、「気づき」を得るいい機会となりました。

桃郷プラン委員会 策定に向け始動

新型コロナウイルス感染症の関係で休止していた「桃郷プラン委員会」が始動しました。委員会は、法人の「中・長期計画(2022年度〜2026年度)」を策定するために、各事業所から選ばれた12名の職員で構成され、手作りの計画策定を目指しています。

計画策定のために、法人設立の経緯や当時の障がい児保育を取り巻く環境を学習するため、7月18日(土)に、法人事務局2階ホールで、船木常務理事、藪本理事から「保健師活動を通して実感した障がい福祉制度の矛盾、法人設立にいたる運動と経緯」などのお話の後、藤本理事から「すべての人の人権を守り、一人ひとりを認め合い、誰もが地域で暮らす・働くという『あたりまえの願い』の実現、地域福祉の実現

今年で第16回となる桃郷まつりは、9月12日開催を予定し準備をすすめてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症が、私たちの日常生活に影響を及ぼし、いわゆる「3密」の状況が避けられないため、大変残念ですが、今年度は中止という判断をさせていただきました。例年、桃郷まつりを心待ちにしてくださっている関係者の方々

桃郷まつり中止 のお知らせ

には、大変心苦しく申し訳ありませんが、ご理解のほどよろしく願っています。



なお、来年の桃郷まつりは、工夫をこらし、関係者の方々に楽しんでいただけるよう、準備を進めてまいります。

桃郷まつり実行委員会

を目指して一緒に頑張りましょう」、田中理事からは「私たちの仕事は誰のためのものか、その実現のために桃郷プランの策定をします。今ある事業が、30年後にあるとは限りません。目標をもって力を合わせて取り組んでください」などのお話をいただきました。当日、田中理事と藤本理事のご紹介で、ご同席いただいた社会福祉法人アトム共同福祉会の市原悟子理事長から「あなたが働いているから保育所が成り立っています。働き続けることが熱意です」、同福祉会会長理事(和歌山大学名誉教授)山本健慈先生から「なぜプランを作るのか。外側からの変化で、仕事の充実が実現できないことがあります。自分の幸せの航海図と世の中の航海図を頭に描いて、どこに岩礁があつて難破しそうだという設計をしないと、日々の充実は無駄になります。そのために計画を作るのです」とのご



プラン委員会(左から船木、藪本、藤本、田中各理事)

助言をいただきました。今回は、ファシリテーターのスキルについての研修を予定しています。

発達講座①

「発達を見つめて」

つくしんぼ相談支援室

山本 翔太

桃郷では「発達保障」の理念を大切に
した保育実践・相談活動を行っています。
この発達保障という言葉をも、一言で説
明することはとても難しいですが、一人
ひとりが発達の主人公として、自分づく
りを豊かにしていくことを、社会的に保
障していく視点だと思っています。

一方で、昨今私たちを取り巻く社会情
勢は、成果主義や自己責任論などの風潮
が強まってきているように感じます。発
達支援でも、発達を「できるできない」
でとらえ、支援の目標が、できないこと
を訓練などしてできるようにすることに
重きが置かれる状況にも出会います。

ここでは、日々の生活でみられる、子
ども達のぬうちある発達の姿、とくに、
一人ひとりが発達の主人公として、自分
らしさを豊かにしていく道のりと、それ
らを支えていくための保育実践・相談活
動などについて、発達相談員がリレー
形式でお伝えしていきます。

いつも笑顔で、おしゃべりも上手
なKくん。つくしんぼ園に入園した
4月当初、自分が気になる物をとに
かく触ってみたい想いが強く、何か
目につくと即座に走り、時には園か
ら飛び出していきこうとするなど、大
人にとってはヒヤツとする場面もあ
りました。

実は、Kくん、自分でできることはた
くさんあるものの、自分がしたこと、発
見したことの手ごたえを、大人と共感・
共有するなど、乳児期後半頃に獲得する
人とのやりとりの力に発達の宿題を残し
ていました。

そんなKくんも、園生活が数か月経ち、
気になるとまっしぐらな姿は残しつつも、
少し立ち止まって大人に「いい？」と言
うように確認したり、驚きや楽しさを
「みて！」とアピールする姿が出てきま
した。もちろん、これはKくん自身の変
化ですが、そのために必要な保育目標を
立て、工夫をしました。

具体的には、午前中は目一杯体を使っ
て「動」の時間を楽しみ、休憩やお昼寝
など「静」の時間も意図的につくり、生
活と気持ちのリズムを整えること。

また、Kくんの想いを受け止める存在
づくりを目指したことなども、大人と
「間」をもつてやりとりする姿につなが
ったのだと思います。

つまり、Kくんの行動は危ないから、
それをやめさせようという目標では、人
との豊かな関係性の広がりにはつながり
にくかったのではないのでしょうか。

単に、できないことをできるようにす
るのではなく、他者との関係性も織り交
ぜ、めぐりめぐって自分自身の内面も豊
かにしていく。これが自分づくりのため
の発達支援ではないかと思っています。

社会福祉法人 桃郷

■ 児童発達支援センター

ひまわり園	〒649-6112	和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-0995	☎0736-66-1905
つくしんぼ園	〒649-7207	和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200
つぼみ園	〒649-6112	和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023

■ 児童発達支援事業

木の实教室	〒649-6236	和歌山県岩出市曾屋370番地17	☎0736-62-0815	☎0736-62-0856
くるみ教室	〒649-6246	和歌山県岩出市吉田228番地1	☎0736-67-7788	☎0736-67-7799
くまの子教室	〒649-7113	和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺146番地2	☎090-3673-9958	

■ 多機能型事業所

あすなるつばさ	〒649-7112	和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降1062番地1	☎0736-23-2900	☎0736-23-2929
---------	-----------	------------------------	---------------	---------------

■ 放課後等デイサービス

青空	〒649-6427	和歌山県紀の川市西井阪224番地1	☎0736-77-0070	☎0736-77-0050
粉河青空	〒649-6531	和歌山県紀の川市粉河1535番地3	☎090-6969-4195	
青空つばさ	〒649-7113	和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺146番地1	☎0736-22-5551	☎0736-22-5561

■ 相談支援事業

桃郷障害児者相談支援センター（つぼみ園に併設）				
	〒649-6112	和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023
つくしんぼ相談支援室（つくしんぼ園に併設）				
	〒649-7207	和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200

■ 法人本部

事務局	〒649-6112	和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-8851	☎0736-67-8851
-----	-----------	--------------------	---------------	---------------

新規採用職員の自己紹介

うへだ きょうこ
植田 京子

- ☆ 所属 児童発達支援センター つくしんぼ園園長
- ☆ 経歴 元かつらぎ町保健師
- ☆ 趣味・好きなこと 映画鑑賞、ショッピング、子どもとの時間
- ☆ 意気込み・抱負 「子どもたちの豊かな発達」のために原点に立てたことに感謝。一つひとつに向き合っていきます。

にしうら のりこ
西浦 紀子

- ☆ 所属 法人事務局職員
- ☆ 経歴 学校卒業後経理関係の業務に従事
- ☆ 趣味・好きなこと 動物園巡り
- ☆ 意気込み・抱負 法人事務局へ配属になりました。一日でも早く業務を覚え、なれるように努めます。また、ていねいな対応ができるように、日々心がけていきたいです。

こたに ゆういちろう
小谷 祐一郎

- ☆ 所属 放課後等デイサービス事業 あすなろつばさ 児童指導員
- ☆ 経歴 前職は医療事務
- ☆ 趣味・好きなこと 野球、サッカー観戦、ライブに行くこと
- ☆ 意気込み・抱負 4月より入職しました。精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。

新規採用職員研修で、私たちの仕事は、憲法第13条の幸福追求権と第25条の生存権を実現していく仕事だと学びました。

憲法第25条では「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と、国民は人間らしく生きていく権利を持つており、国はその責任を持たなければならぬことを理念として明記しています。

教育学者の齋藤孝氏が書かれているように、憲法には「声に出して読みたい」条文が多くあります。昨今、憲法論議が盛んですが、あらためて憲法を読み直すいい機会になりました。

編集後記

管理者からの施設紹介①

児童発達支援センター「ひまわり園」
園長 林 真世

- ☆ 施設の概要
 - 沿革：1994年(平成6年)4月開設
 - 住所：紀の川市桃山町調月58-3
 - 定員：30名
 - 利用者：36名
 - 対象年齢：就学前
 - 保育時間：午前9時～午後3時15分
- ☆ 保育目標
 - ① 子ども一人ひとりの人権を尊重し、心身ともに豊かな発達を目指します。
 - ② 保護者や家族、地域と共に育ちあうことを目指します。
- ☆ 保育方針
 - 個性あふれる子どもたち。子どもたちのかわいい姿に職員の話話が絶えない毎日です。「うわーおもしろそう。やってみたい」と、子どもたちが心動かされるような活動を提供することを目指しています。

一方で、発達を科学的に捉え、保育課題を職員と保護者で共有します。愛着関係を築く大事な時期に、しっかり親子で向き合っていたきたく親子保育を実施しています。

また、保護者教室や交流会で保護者の学びと交流の機会を設け、一人で悩まずに共に育つことを目指しています。

- ☆ 保育内容
 - しっかり遊び、食べて寝て排泄するという当たり前の生活。これは、生活の土台であり、ていねいに指導しています。

心と体のバランスよい発達を目指し、外遊びや散歩、リズムなどでいっぱい体を使います。しかも、お友だちや職員と一緒に楽しい経験をたっぷりしながら。

こうして好きな先生や友だちができ、彼らを支えに苦手なことにも挑戦し、自信をつけてほしいと思っています。

私は、社会福祉法人桃郷の療育に関わって15年近くになります。療育施設でありながら、訓練的でない友だちとの楽しい生活の繰り返し。その積み重ねが、実は子どもたちの発達にとっても大事だということを、私自身が学ばせていただいています。